

# 地域とともに歩む学校づくり

学校は地域に開かれるとともに、保護者や地域住民に信頼される学校運営をする必要があります。本市においては、平成16年度にすべての市立学校で学校評議員制度を導入し、校園長は評議員の意見を参考にしながら学校運営を実施してきました。一方、平成22年度より導入を進めているコミュニティ・スクールにおいては、学校評議員制度の活用に合わせて学校運営協議会を設置し、学校運営について地域と共に考え歩む取組を進めております。

学校評価に関しては、平成19年6月の学校教育法、同年10月の学校教育法施行規則の改正により、自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が設けられております。このことを受けて、各校園では、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、ホームページなどを通じて、評価結果の公表をするとともに、明らかとなった課題についての改善を図っております。

ここに、平成30年度の各校園における「学校評議員の活用」や「学校評価の実施」の様子を「地域とともに歩む学校づくり」としてまとめました。各校園では、この報告書を参考にするとともに、校園・家庭・地域が連携・協力しながら、よりよい学校運営に向けて取組を実施し、開かれた学校、地域から信頼される学校となるようお願いします。

平成31年3月  
奈良市教育委員会

- 平成30年度は207名に学校評議員として奈良市の学校運営に参画していただきました。  
評議員の置かれている学校実数

幼稚園20園 小学校22校、中学校7校、小中学2校、高等学校1校

〔奈良市立学校数：幼稚園20園 小学校43校、中学校21校、高等学校1校〕

\* アンケート集計では、小中学校は中学校、高等学校とあわせて集計しています。

## 内容

### 1. 学校評議員制度の活用

【学校評議員 役職の内訳】 .....	2
【設置されている学校評議員数】 .....	2
【学校評議員の再任の割合】 .....	3
【校長が学校評議員に求めた意見例】 〔意見を求めた学校園数の割合〕 .....	3
【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】 .....	4
【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】 .....	4

### 2. 学校評価の実施

【学校評価を進める仕組みの有無】 .....	5
【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】 .....	5
【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】 .....	5
【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】 .....	6
【学校関係者評価の実施について】 .....	7

### 3. 学校評価の成果と課題

【学校評価を行ったことで得られた成果】 .....	8
【学校評価をすすめる上での課題】 .....	9
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題】 .....	10
【学校評価結果から指摘できる、学校が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】 .....	11

### 4. 学校評価と学校ビジョン

【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】 .....	12
--	----

## 1. 学校評議員制度の活用

### 【学校評議員 役職の内訳】

役職の内訳	本年度		備考
	人数	割合	
PTA関係	66人	32%	それぞれの項目は元経験者も含む。
民生関係	38人	18%	主任児童委員、児童委員
自治会関係	36人	17%	
学校支援	5人	2%	地域教育協議会、地域ボランティア
少年指導協議会関係	3人	2%	人権教育協議会、安全推進協議会など
教職経験者	10人	5%	
地域活動関係	7人	3%	
社会福祉協議会関係	18人	9%	
公民館・施設長関係	2人	1%	
各種協議会	16人	8%	
一般	4人	2%	
万年青年	2人	1%	

### 【設置されている学校評議員数】

学校評議員数	校種別の内訳（校数）					合計
	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	
5人	2園	9校	1校	1校		13校園
4人	8園	12校	3校	1校	1校	25校園
3人	10園	1校	3校			14校園
2人						0校園
合計（校園数）	20園	22校	7校	2校	1校	52校園
総人数	72名	96名	26名	9名	4名	207名

## 【学校評議員の再任の割合】

再任割合	幼稚園	小学校	中学校	小中学校	高等学校	合計
人数(人)	23人	40人	8人	6人	4人	81人
割合(%)	32%	42%	31%	67%	100%	39%

## 【校園長が学校評議員に求めた意見例】〔意見を求めた学校数の割合〕

### 「地域の連携・協力に関すること」

[幼:85% 小:91% 中高:91% 全体:92%]

- ◆学校環境整備、学習支援について
- ◆学校園行事、地域行事への相互協力
- ◆各種団体との連携状況報告について
- ◆地域の見守りについて
- ◆地域で決める学校予算事業、地域コーディネーター、学校支援ボランティアについて
- ◆ふるさと学習について
- ◆地域の方の保育参加について

### 「幼児児童生徒の安全に関すること」

[幼:100% 小:86% 中高:64% 全体:90%]

- ◆保育中・災害時等の安全管理について
- ◆バス・自転車等の通園方法について
- ◆園外保育の安全について
- ◆登下校見守りについて
- ◆通学路や地域の危険箇所について
- ◆防災対策や防犯対策について
- ◆スマホ等の扱いについて
- ◆地域と合同の避難訓練について

### 「学校の目標としていることに関すること」

[幼:85% 小:86% 中高:64% 全体:85%]

- ◆学校園教育目標・教育ビジョンについて
- ◆めざす学校像や子ども像について
- ◆地域人材のさらなる活用について
- ◆中学校区としてのめざす子ども像の確認と追求のための取組について
- ◆地域予算や地域連携について
- ◆学校園運営・経営計画について
- ◆本年度の重点目標について
- ◆特色ある教育活動への理解と協力について

### 「学校に対する評価に関すること」

[幼:95% 小:77% 中高:55% 全体:83%]

- ◆児童生徒・保護者・教職員アンケート、学校関係者評価について
- ◆学校評価の基準、分析について
- ◆教育活動・学校園経営・運営の評価について
- ◆取組の評価のあり方について
- ◆学校関係者の評価者として
- ◆説明責任と情報公開について
- ◆地域連携について

以下、「教育課程・教育内容に関すること」(全体:67%)、「学校施設・設備に関すること」(全体:69%)、「生徒指導に関すること」(全体:56%)と続いています。

## 【学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組み】

教職員全体で共有する仕組み	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
共有し、対応するシステムがあり、全体及び担当分掌で対応することができている。	69%	52%	57%	74%	73%	<b>65%</b>
共有し、対応するシステムがあるが、十分機能しているとはいえない。あるいは共有できていない。	31%	45%	36%	25%	27%	<b>35%</b>

## 【学校評議員の方々からのご意見が教育活動に活かされた例】

- ◆学校行事の見直し。
- ◆教職員と保護者・地域の方々との校区の巡回見守り活動。
- ◆登下校中に避難が必要になった場合の集合場所や避難について、家庭での話し合いを保護者に周知。
- ◆次年度の地域人材活用について、計画を立てることができた。
- ◆評議員の紹介によって、新たなゲストティーチャーを招聘できた。
- ◆命の大切さについて、生徒指導部や生徒会と共に取り組んでいる。
- ◆学校だよりやホームページ等による教育活動の積極的な発信。
- ◆大きな行事に際し不審者への対策として全ての参加者に「入場証」の着用を実施。
- ◆Q-Uを活用した教育相談体制の推進。
- ◆全校集会等における児童相互の意見交流の場の設定。
- ◆放課後子ども教室での学習支援等、様々な学習活動への協力依頼と実際の支援。
- ◆民間企業主催の事業を活用し、地域の方々と一緒に校門付近の植樹・花壇の整備を行った。
- ◆ふれあい体育大会での階段用ブロックの設置やシルバーシートの設置など。
- ◆評議員の指摘により、仮設渡り廊下の暑さ対策工事を行った。
- ◆年度当初より授業研究委員会を立ち上げ、恒常的な取り組みとしている。
- ◆若手教員育成のため、放課後に自主研修を実施した。
- ◆全校玉入れ、ドッジボール大会、大なわ大会等、体力づくりに関する継続的な取組の実施。
- ◆いじめ防止教室の実施。 ◆奈良西警察との連携による情報モラル講演会の開催。
- ◆地域のまつりにおいて、各店やイベントの運営に6年生が参画。社会的な活動への意欲づけになった。

各学校で行われた学校評価をいかに年度末総括に反映させ、次年度の学校園づくりにつなげるかが、さらなる教育改善のポイントとなります。P D C AサイクルのAは学校園を変えるためのアクションです。それは全教職員が評価を共有することから始まります。

また多くの協力を得て出した評価を、子どもたちや地域の方々と共有することも、アクションを起こすために必要です。学校便りや学校ホームページなどでの公開も、非常に有効な方法となります。

## 2. 学校評価の実施

### 【学校評価を進める仕組みの有無】

学校評価を進める仕組み	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
学校評価を進める 校内委員会等を組織している。	87%	91%	86%	82%	80%	<b>84%</b>
全教職員参加のもとで 学校評価を進めている。	91%	96%	88%	89%	94%	<b>88%</b>

〔平成 30 年度内訳（校内委員会等の組織している。／全教職員が参加している。）〕

幼：70%/80% 小：88%/88% 中高：91%/96%〕

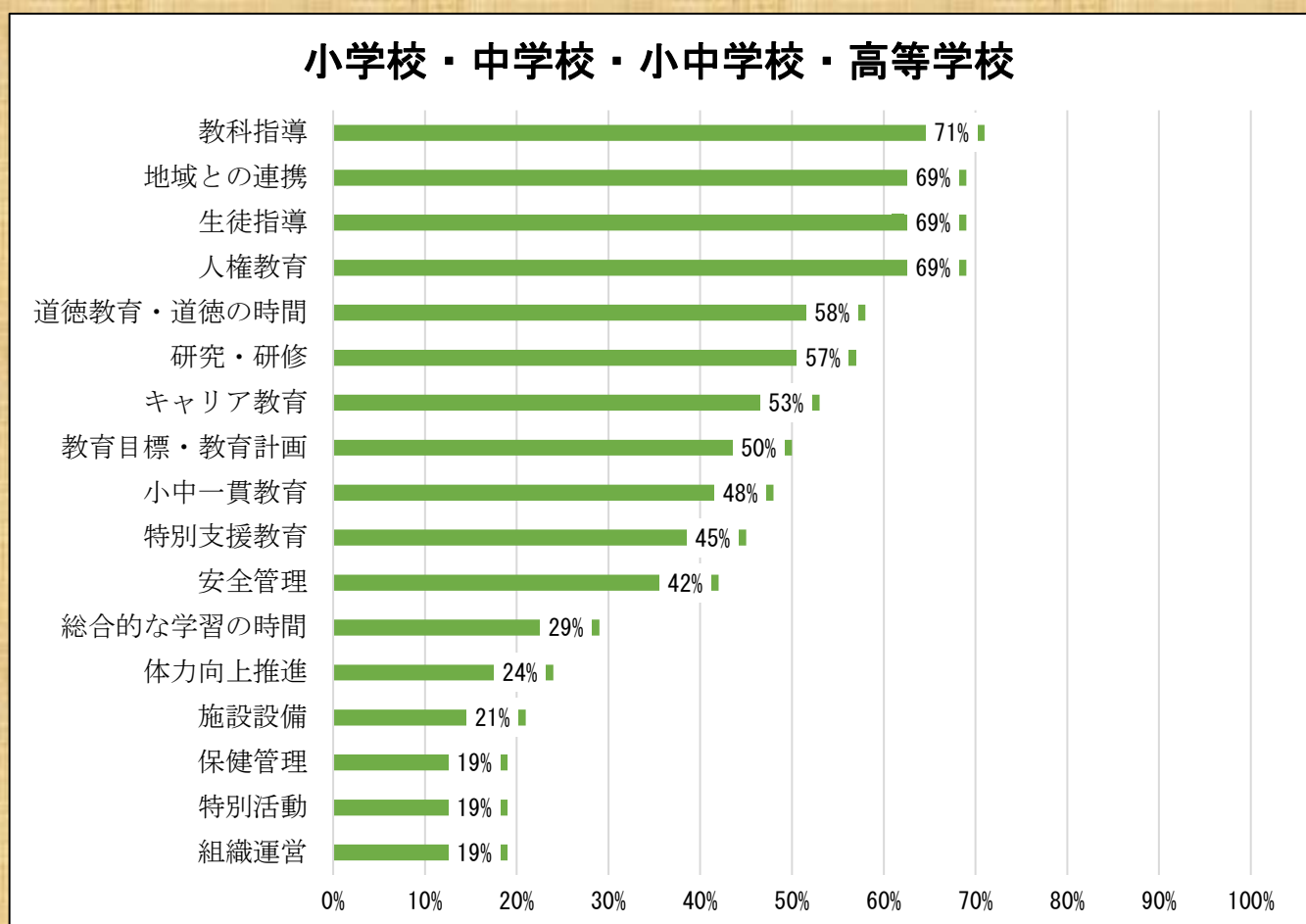
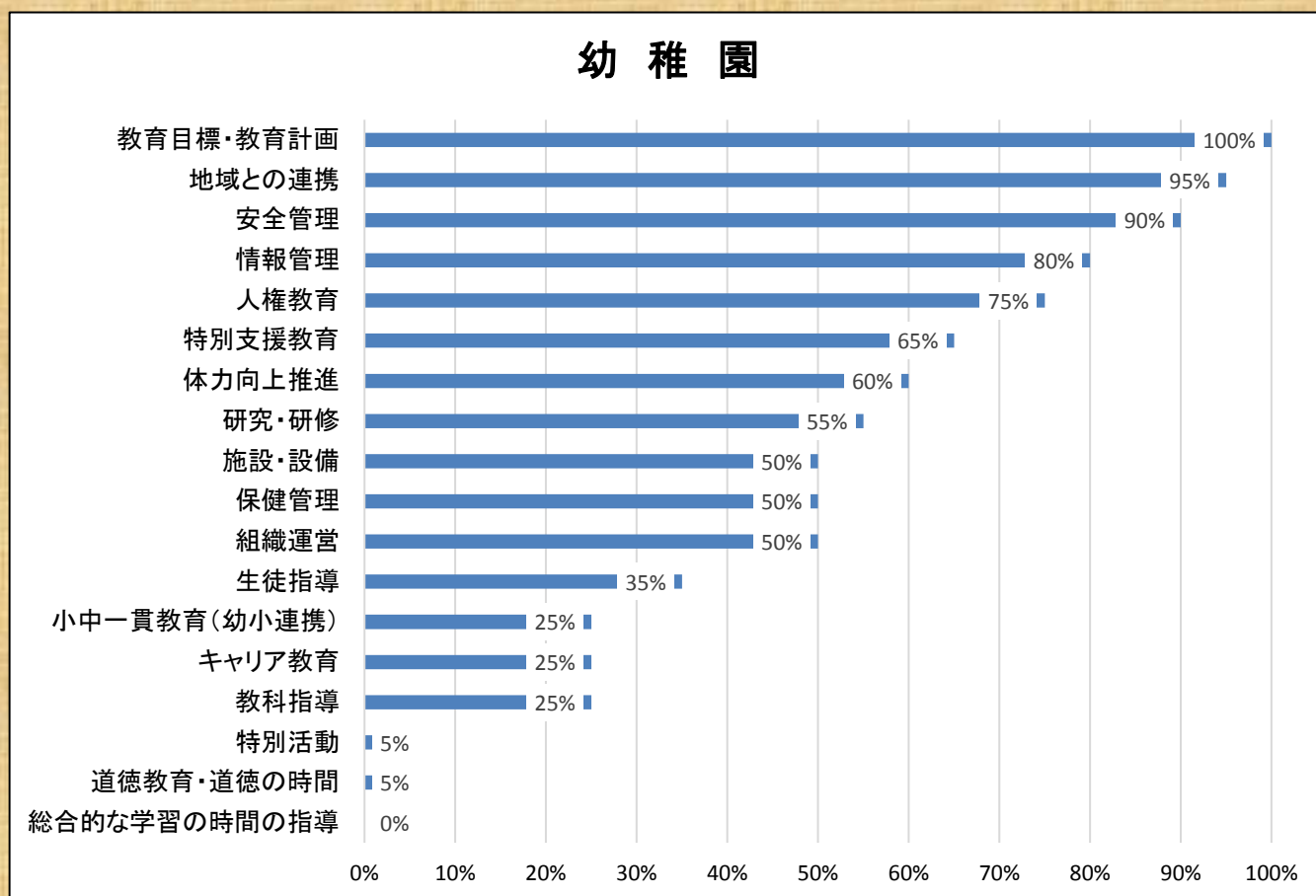
### 【評価結果に基づく改善方策の検討を行う体制】

学校評価を進める仕組み	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
全教職員参加の体制で行っている。	90%	73%	68%	<b>76%</b>
学校評価関係教職員で行っている。	2%	15%	23%	<b>16%</b>
主に担当者が行っている。	0%	13%	9%	<b>8%</b>

### 【外部アンケート（児童生徒・保護者等を対象としたアンケート）の実施割合】

	幼稚園	小学校	中高等学校	全体
年度末に 1 回実施	50%	20%	23%	<b>21%</b>
年度末以外に 1 回実施	45%	75%	64%	<b>71%</b>
年 2 回（1 学期末、2 学期末）	1%	3%	14%	<b>7%</b>
その他（行事ごと等）	0%	3%	0%	<b>2%</b>

【各校が設定した重点的な目標（評価項目）】



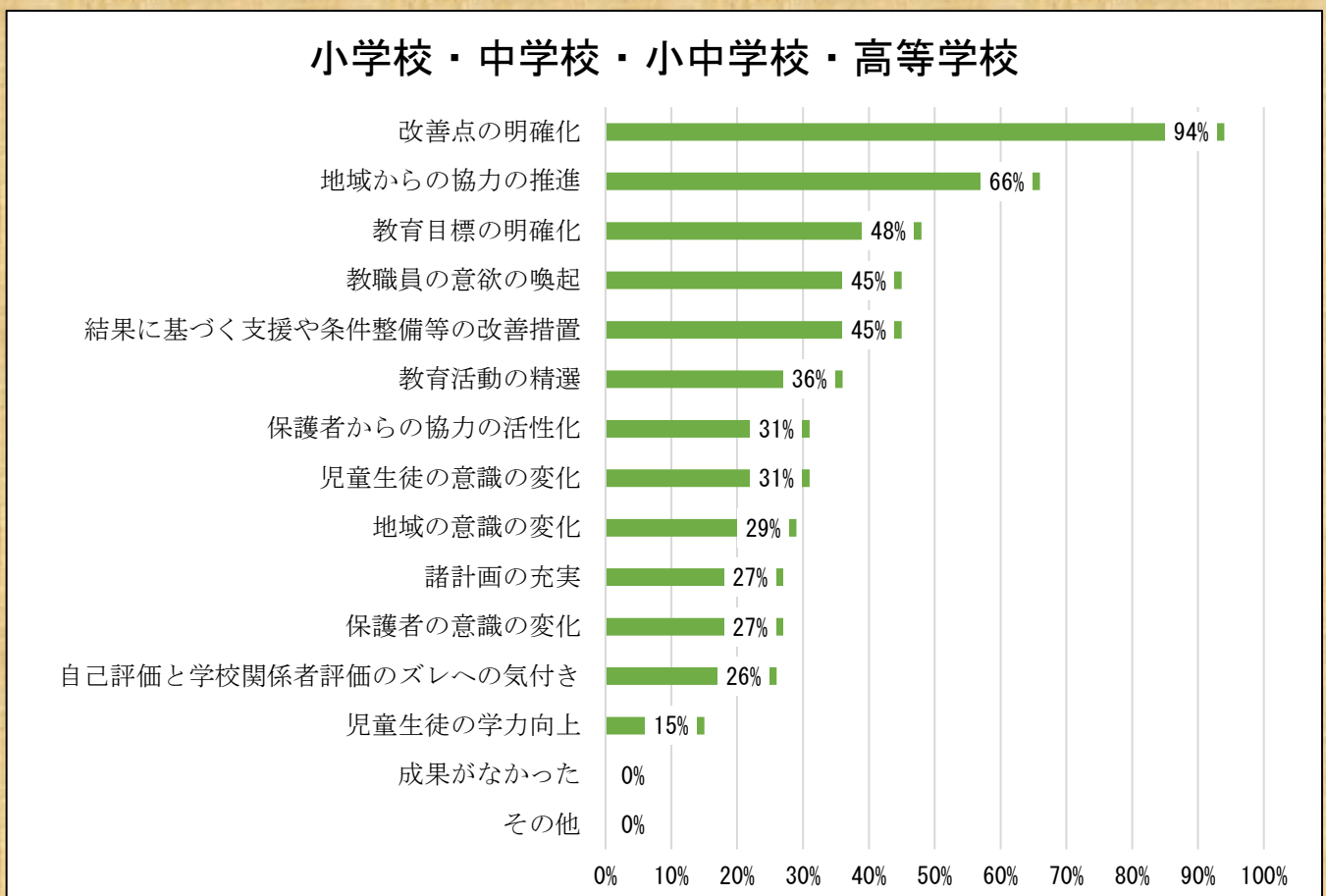
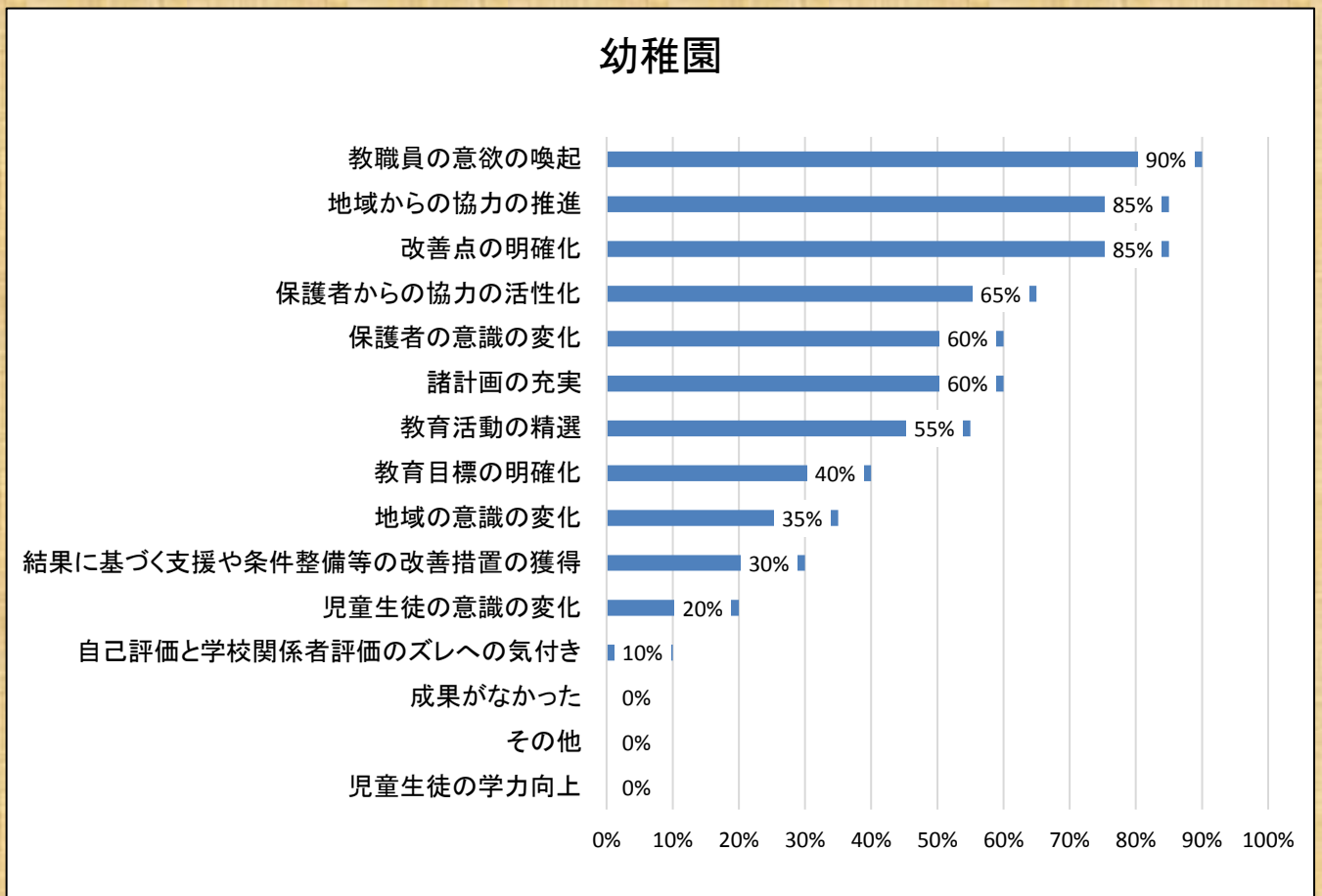
【学校関係者評価の実施について】

	幼稚園	小学校	中高学校	全体
評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。	75%	75%	68%	<b>73%</b>
学校の教育活動の取組を評価者に説明するとともに、普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている。	95%	93%	82%	<b>90%</b>
評価はアンケート形式で回答を求めている。	70%	40%	46%	<b>49%</b>
評価者の意見を聞く場を設定し、学校の教職員と直接、意見交換している。	10%	38%	27%	<b>28%</b>

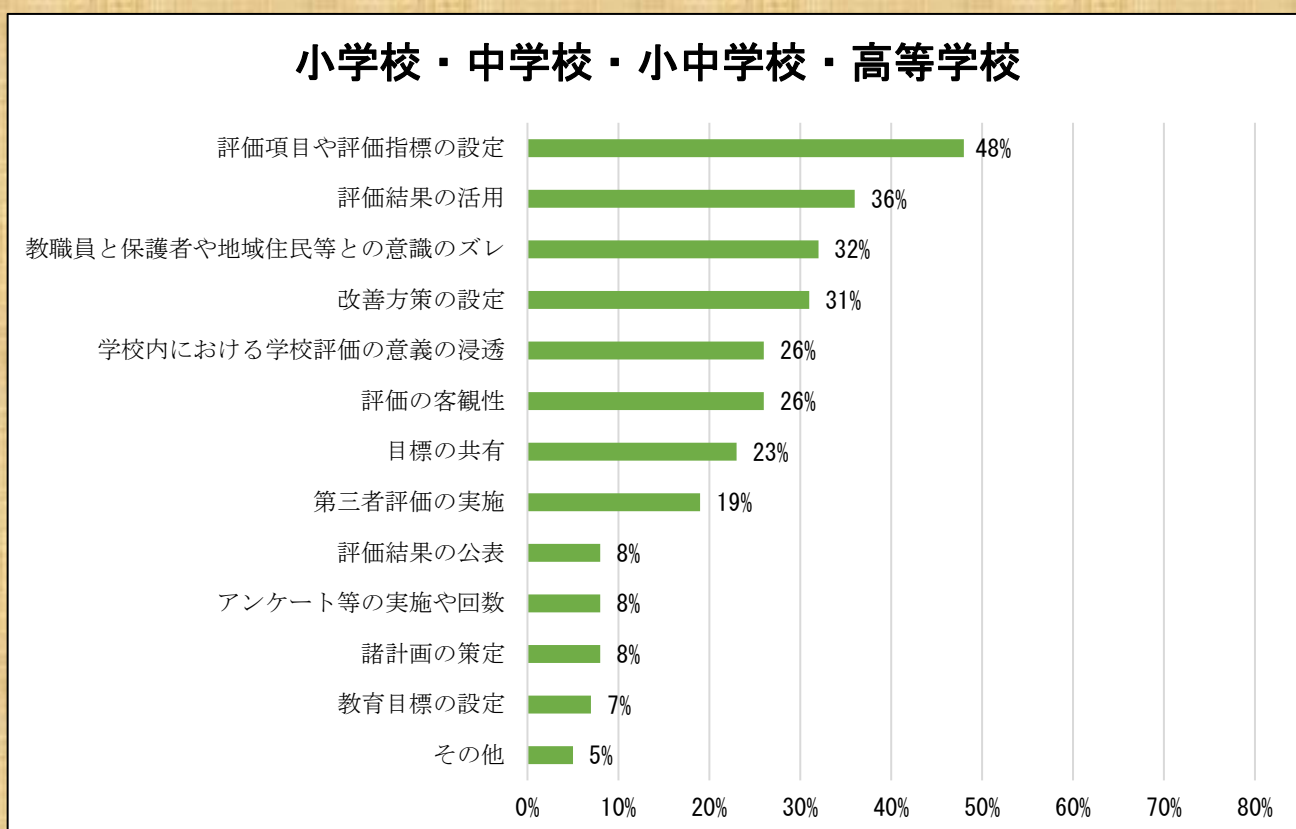
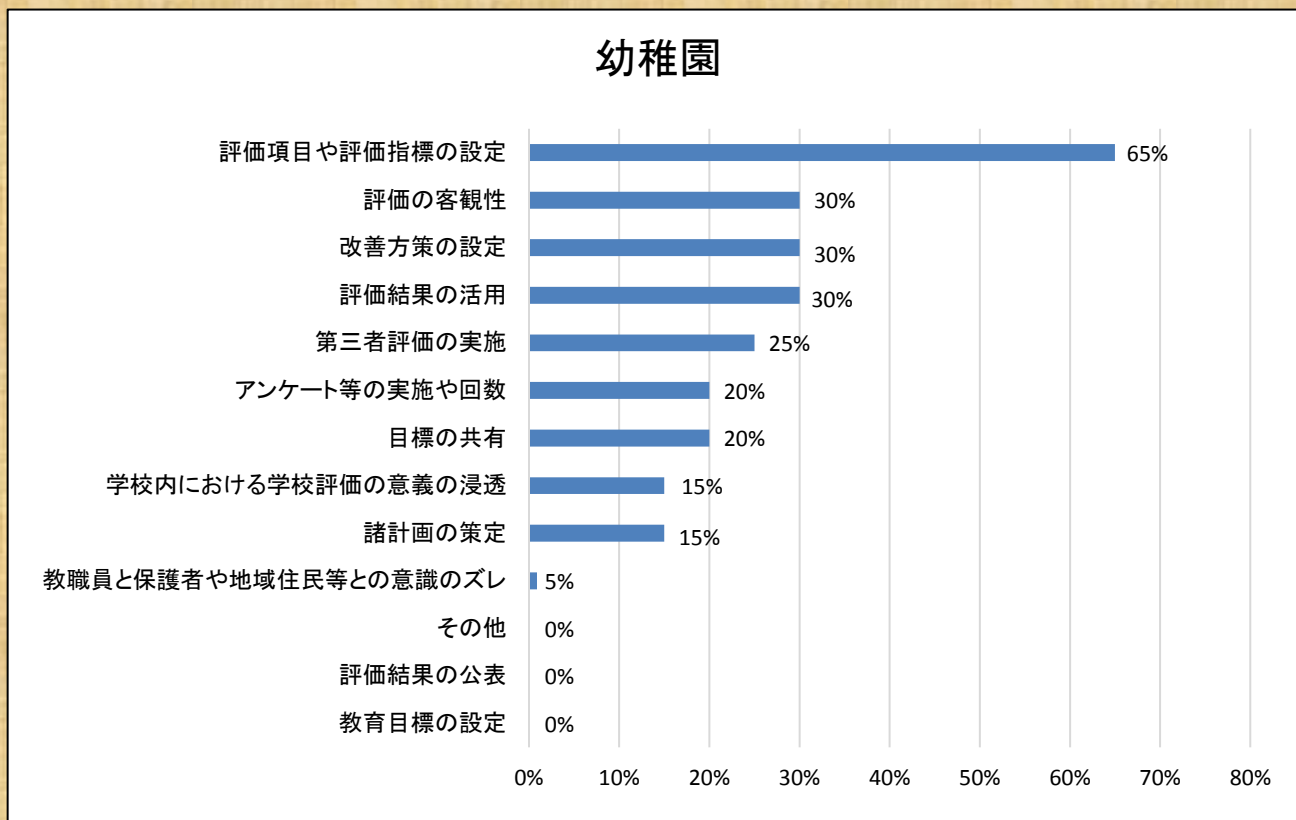


### 3. 学校評価の成果と課題

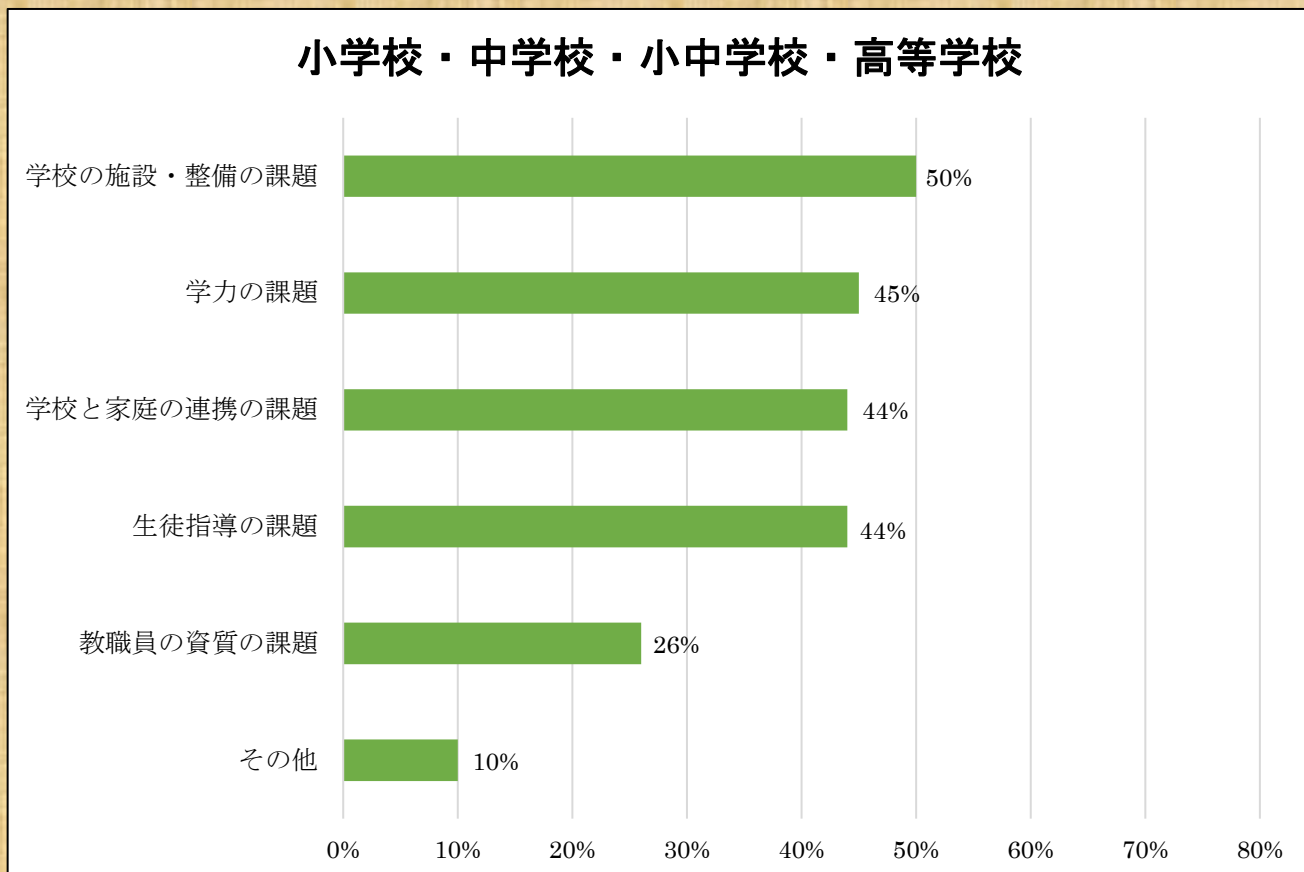
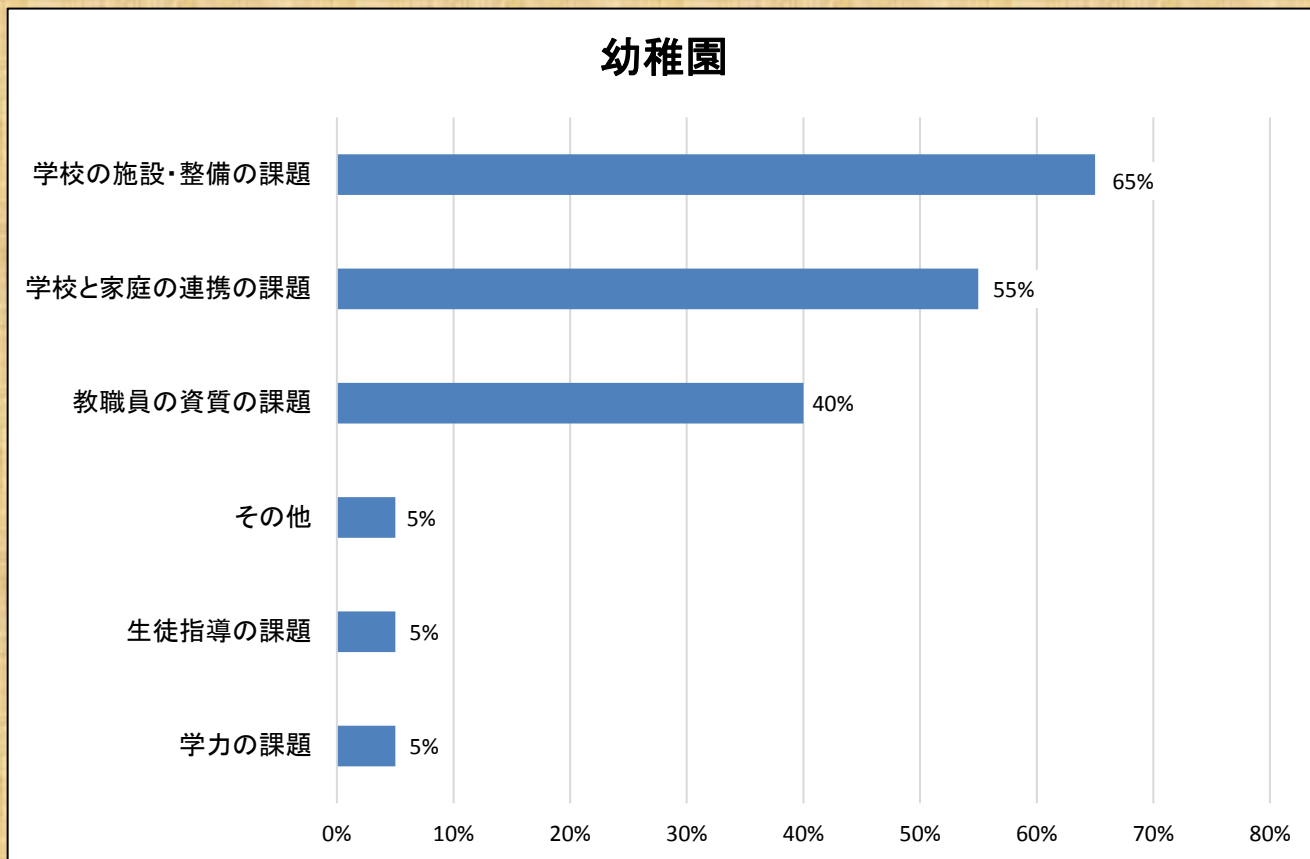
#### 【学校評価を行ったことで得られた成果】



## 【学校評価をすすめる上での課題】



【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱かえる学校経営上の課題】



## 【学校評価結果から指摘できる、学校園が抱かえる学校経営上の課題の具体的解決策の例】

### 〔学校と家庭の連携に関すること〕

- ・学校ホームページや学校だよりを通じて取組の実際を伝えることと、家庭で子どもが学校のことを話したくなるような実践を行う。
- ・PTA活動の中身の改善。
- ・園教育と同時に家庭教育の大切さを伝え連携を強化する。
- ・家庭訪問の充実とよかったことがあった時の積極的な連絡。
- ・家庭と学校それぞれの立場を互いに理解し、大切な子どもをよく育てるという目標に向かって協力し合う。
- ・教育相談体制を充実させ、保護者の思いや悩みの相談に応じている。

### 〔生徒指導に関すること〕

- ・生徒指導部の定例会と職員での情報共有及びいじめ対応教員等を中心とした組織での対応。
- ・Q-Uの活用によるいじめの未然防止。
- ・Q-U分析から生徒理解を深め見守りと適切な声かけにより、心に寄り添い個に応じたきめ細やかな指導体制を強化。
- ・教育相談活動の充実。
- ・生徒の主体的な活動による改善。
- ・家庭・地域との連携による自己有用感の醸成。
- ・見守り活動の充実。
- ・アンガーマネージメントなど生徒指導研修の充実。
- ・学校だけで抱え込まず、地域・保護者をはじめ警察、市教委、行政とも連携して課題解決にあたる。
- ・耐震化されていない箇所に係る経路等の対策や見直しを行う。
- ・児童の校外でのマナー向上。

### 〔学力に関すること〕

- ・基礎学力定着のために、繰り返しの指導を徹底する。
- ・学びの跡が分かるように、板書計画の改善やノートの使い方の指導を行う。
- ・様々な感動体験や夢中になる遊びの環境構成や援助の取組。
- ・小中一貫教育に引き続き取り組み、確かな学力の定着に向け、研究を行う。
- ・地域の支援を得て、放課後の学習支援を継続し、生徒の学習意欲と自尊感情の向上を目指す。
- ・研究授業を行い、授業改善をすすめる。
- ・教職員の授業力を高める研修の実施。
- ・児童の意欲を大切にされた授業改善。
- ・「分かる授業」「楽しい授業」を工夫し、児童の自尊感情を高めることにより学習意欲や規範意識を高めようと取り組んでいる。

### 〔施設・整備に関すること〕

- ・施設設備を計画的に管理し、予算を有効に使うとともに、関係機関に協力を求めていく。
- ・予算の重点を絞り、整備していく。
- ・安全管理に努め、施設の整備に努める。
- ・点検作業の日常的な実施と安全確保のための素早い補修と計画的な修繕に努める。
- ・地域や保護者の理解を得て環境整備を計画的に行えるよう協力体制を整えていく。
- ・PTA 会計と連携。
- ・校内の美化を更に進め、危険度から導いた優先順位を付け、施設の充実を図る。
- ・台風被害で倒れた木を市と連携を密にして、施設整備(倒木伐採等)を進めた。

## 4. 学校評価と学校ビジョン

### 【学校評価結果をうけて、改善しようとしている学校ビジョンの内容】

- ・地域の特色と教育力を活かし、人とのかかわりを大切にしながら「生きぬく力」を育む保育内容の創造。
- ・学校評価の中では、「奈良らしい教育の推進」への好評価があり、今後も取り組んでいきたい。
- ・協力的な地域の特性や、素直で真面目な子どもたちの良さを生かしながら、教職員の協働体制をより良い形で一層引き出せるようにしていきたい。
- ・新学習指導要領実施に向けて、より具体的な指導体制を確立していく必要がある。
- ・保幼小連携、小中一貫教育の見える化。
- ・学校ビジョンの学校・保護者・地域との共有の深化とPDCA サイクルに則った改善の営みの深化。
- ・教職員の働き方改革。
- ・児童の健康と安全を守るために保護者(PTA)との協力体制を強化する。
- ・学校評価結果をもとに、学校教育目標を達成する手段を点検し教育活動を精選する。その一つとして、家庭学習充実に向けて支援方法を示していく。
- ・児童の校外でのマナー向上・安全確保。
- ・キャリア教育推進に向け、小学校も含めた推進計画の作成と共有。
- ・小中合同による学校運営協議会のさらなる充実:今年度の成果・課題から中・長期的ビジョンをもとに、さらなる見守り活動・支援活動・生徒との協働を充実させ保護者・地域とともに学校づくりを推進する。
- ・小中一貫による学力・生徒理解の向上。
- ・地域協働での学習支援の効果的な継続による学習意欲と自尊感情の向上。
- ・見守りと適切な声かけによる生徒の心に寄り添い個に応じたきめ細やかな指導体制の強化。
- ・目まぐるしく変化していくこの時代に、ますます必要となってくる「人間力」を本校の教育ビジョンの中に取り込む必要があると考えている。具体的に発達年齢に応じ設定したい。
- ・教員の資質向上として児童の学習意欲が高まる授業のあり方について研究する。研究授業はもとより、普通の授業交流等を行うことにより指導力の向上を図る。
- ・これからの時代を生き抜く力を培うためのひとつの方策として、キャリア教育を進めていく必要があると考える。3年間、さらには小中をつなぐキャリア教育の構築を目指したい。
- ・教員同士の学び合いによる授業力の向上とOJTを活性化し若手教員を育成し、チーム力を強化する。
- ・生徒・保護者による評価は非常に高い数値で推移しているが、高等学校の学習指導要領改定や大学入試改革に対応できる教育体制の構築が急務であると考えている。「生徒の未来を開く」を基調にした思考力・分析力・発進力・課題解決力・コミュニケーション能力・表現力の向上を図る授業実践を一層深化させる必要がある。